

科目名	理学療法概論					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 1年	学期	前期	教員実務経験		有	使用教室	202教室
授業概要	理学療法の概念、歴史、方法や対象などについて説明し、理学療法の専門科目を学んでいくための基礎を作ることを主眼として、理学療法の全体像を総合的・体系的に概説する。									
一般目標	理学療法に関する概要・領域・対象疾患について説明できる。 医療従事者となるための社会的な態度を身に付け、協調性を持って授業に取り組める。									
テキスト 参考書等	シンプル理学療法シリーズ 理学療法概論テキスト 最新版(南江堂)									

到達目標										
知識(認知領域) 1. 理学療法の概念・歴史を説明できる 2. 理学療法に関連する法規を説明できる 3. 理学療法の主な領域について説明できる。 4. 理学療法の対象となる病態について説明できる。 5. 理学療法の対象となる疾患について説明できる。 6. 一般の人に理学療法について平易に説明できる。										
技術(精神運動領域) なし										
態度(情意領域) 積極的に授業に参加することができる。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	理学療法学科カリキュラムの概略	・4年間で学ぶ概略を説明できる。	4年間の学習計画についてテキストを読破する。(30分) 学科カリキュラムの構成と流れを復習する。(30分)
2	理学療法の定義・歴史	・理学療法の歴史と定義について説明できる。	理学療法の歴史と変遷について予習する。(30分) 理学療法の定義と社会的役割を復習する。(30分)
3	理学療法と障害・理学療法の対象	・理学療法の対象について説明できる。	障害の概念と分類について基礎を確認する。(30分) 理学療法の対象となる障害を整理し復習する。(30分)
4	理学療法の流れ	・理学療法の流れと臨床パスについて説明できる。	評価から治療までの基本的な流れを予習する。(30分) 理学療法の工程とパスの意義を復習する。(30分)
5	理学療法士に求められる資質、接遇、コミュニケーション	・理学療法士としてふさわしい接遇がイメージできる。	医療従事者に必要な接遇の基礎を予習する。(30分) 適切なコミュニケーション技法を振り返る。(30分)
6	理学療法を構成する核技術の概要①運動療法	・運動療法の概略が説明できる。	運動療法の目的と種類について予習する。(30分) 運動療法の基本原理と効果を復習する。(30分)
7	理学療法を構成する核技術の概要①物理療法	・物理療法の概略が説明できる。	物理療法の種類と物理刺激の基礎を予習する。(30分) 各物理療法の適応と禁忌を整理し復習する。(30分)
8	理学療法を構成する核技術の概要①日常生活活動練習	・日常生活活動練習の概略が説明できる。	ADLの定義と評価方法について予習する。(30分) 日常生活活動練習の具体的な手法を復習する。(30分)
9	感染予防	・感染予防が実施できる。	標準予防策と感染経路の基礎を確認する。(30分) 手洗いとガウンテクニックの手順を復習する。(30分)
10	作業療法概論(OT教員)	・作業療法の仕事の概要が説明できる。	作業療法の定義と役割について予習する。(30分) 作業療法と理学療法の共通点と相違点を復習する。(30分)
11	理学療法士が働く現場①	・急性期の理学療法士の仕事について説明できる。	急性期医療の特徴とリスク管理を予習する。(30分) 急性期における理学療法の役割を復習する。(30分)
12	理学療法士が働く現場②	・回復期の理学療法士の仕事について説明できる。	回復期リハビリテーションの概要を予習する。(30分) チーム医療と回復期での役割を復習する。(30分)
13	理学療法士が働く現場③	・生活期の理学療法士の仕事について説明できる。	地域・在宅における生活期支援を予習する。(30分) 生活期理学療法の目的と支援内容を復習する。(30分)
14	理学療法士が働く現場④	・スポーツ領域の理学療法士の仕事について説明できる。	スポーツ領域の理学療法の特色を予習する。(30分) スポーツ現場での評価と介入を復習する。(30分)
15	まとめ	・理学療法の仕事について説明できる。	理学療法の全体像についてテキストを読み返す。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席				欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	理学療法士として15年以上の経験を有する	

科目名	理学療法評価法A					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 1年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	502教室・治療室
授業概要	理学療法分野における検査は、対象者に何らかの刺激・情報をinputし、そのoutputの質を特定の基準により判定するものであり、測定と同様に理学療法介入に先立って行われる。理学療法評価の中で、形態を把握すること(形態測定)、関節の自動・他動での可動範囲(関節可動域)を測定・把握することについて学ぶ。									
一般目標	理学療法評価の中で、形態測定の意義・方法を理解し手順の知識を身に着ける。関節可動域測定の意義・方法を理解し、上肢・下肢・体幹の手順の知識を習得する。									
テキスト 参考書等	図解 理学療法検査・測定ガイド (文光堂) 参考書)PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版(金原出版株式会社) 参考書)PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 第2版(金原出版株式会社)									

到達目標			
知識(認知領域) 形態測定の検査の方法、意義、目的が記述できる。 四肢・体幹の関節可動域の参考可動域、基本軸、移動軸が記述できる。			
技術(精神運動領域) なし			
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	理学療法評価の目的・意義、検査の基本原則	理学療法評価の目的・意義、検査の基本原則が説明できる。	テキストを読み評価の目的を予習する。(30分) 検査の基本原則と意義を復習する。(30分)
2	情報収集と情報管理	理学療法評価の中で必要な情報の種類・方法・管理を説明できる。	情報の種類と管理方法を予習する。(30分) 適切な情報管理の重要性を復習する。(30分)
3	形態測定①	形態計測の定義・意義・検査のポイント・体格の検査を説明できる。	形態計測の定義と意義を予習する。(30分) 体格検査のポイントを復習する。(30分)
4	形態測定②	四肢長・肢節長の検査・測定方法を説明できる。	四肢長・肢節長の測定法を予習する。(30分) ランドマークの触知を復習する。(30分)
5	形態測定③	四肢周径の方法を説明できる。	四肢周径の測定方法を予習する。(30分) 周径測定の手技と力加減を復習する。(30分)
6	関節可動域検査①	関節可動域検査の定義・意義・分類・検査のポイントを説明できる。	ROM検査の定義と分類を予習する。(30分) 検査の基本原則と注意点を復習する。(30分)
7	関節可動域検査②	上肢の関節可動域検査の方法が説明できる。	上肢の参考可動域と基本軸を予習する。(30分) 上肢のゴニオメータ操作を復習する。(30分)
8	関節可動域検査③	上肢の関節可動域検査の方法が説明できる。	上肢の移動軸と測定面を予習する。(30分) 上肢の測定手順と代償動作を復習する。(30分)
9	関節可動域検査④	上肢の関節可動域検査の方法が説明できる。	上肢各関節の構造と運動を予習する。(30分) 上肢全般の測定手技を総復習する。(30分)
10	関節可動域検査⑤	下肢の関節可動域検査の方法が説明できる。	下肢の参考可動域と基本軸を予習する。(30分) 下肢のゴニオメータ操作を復習する。(30分)
11	関節可動域検査⑥	下肢の関節可動域検査の方法が説明できる。	下肢の移動軸と測定面を予習する。(30分) 下肢の測定手順と固定を復習する。(30分)
12	関節可動域検査⑦	下肢の関節可動域検査の方法が説明できる。	下肢各関節の解剖と運動を予習する。(30分) 下肢全般の測定手技を総復習する。(30分)
13	関節可動域検査⑧	体幹の関節可動域検査の方法が説明できる。	体幹の参考可動域と基本軸を予習する。(30分) 体幹の測定法と注意点を復習する。(30分)
14	関節可動域検査⑨	体幹の関節可動域検査の方法が説明できる。	体幹の移動軸と測定面を予習する。(30分) 体幹の測定手技を繰り返し復習する。(30分)
15	関節可動域検査⑩	全ての関節可動域検査の方法が説明できる。	全身の関節可動域測定法を予習する。(30分) 全範囲の総復習を行い試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト	○			評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	理学療法士として回復期・維持期における理学療法評価に携わった経験あり。	

科目名	理学療法評価法B					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	治療室	
授業概要	身体機能において筋力測定は重要な評価方法の一つである。特に、機器を使用せずに筋を個別に評価することができる徒手筋力検査法は理学療法士として必須の評価方法である。授業では、筋力低下の病態とそのメカニズムの理解からはじめ、測定における原理・原則、頭部・上肢・体幹・下肢の筋の測定時のポイントについて、実技を通じて基本的な知識・技術を修得する。									
一般目標	・徒手筋力検査法の段階づけ・検査肢位について知識・技術を修得し、実施できる。									
テキスト 参考書等	教科書:新・徒手筋力検査法 原著第10版(協同医書出版社) 参考書:図解 理学療法検査・測定ガイド(文光堂), MMT適切な検査肢位の設定と代償運動の制御(medical view), MMTナビ臨床で役立つ徒手筋力検査法(Round Flat)									

到達目標										
知識(認知領域) ・徒手筋力検査の原理・原則を説明できる。・徒手筋力検査における段階づけの判定基準を説明できる。 ・徒手筋力検査において、検査肢位・固定方法・評価基準・代償動作を説明ができる。										
技術(精神運動領域) ・目的とする筋の触診ができる。・適切な徒手抵抗により抑止テストを実施できる。・適切な声掛け、代償動作の抑制、抑止テスト、段階づけの判断など、徒手筋力検査における一連の測定方法を遂行できる。・姿勢別に徒手筋力検査の項目を列挙できる。・姿勢別に徒手筋力検査を実施できる。										
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加できる。										

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	徒手筋力検査法の意義・目的	・筋力の種類・評価方法を説明できる。 ・MMTの意義・目的を説明できる。	筋力の種類と評価方法をテキストで確認する。(30分) MMTの意義と目的について整理して復習する。(30分)
2	段階づけと抑止テスト	・段階付けの判定基準を説明できる。 ・抑止テストを実施できる。	判定基準の数値(0～5)の定義を予習する。(30分) 抑止テストの適切な力加減と手技を復習する。(30分)
3	上肢の徒手筋力検査①肩甲骨外転と上方回旋、肩外転、肘伸展、手関節屈曲	・該当する筋を触診できる。・段階ごとの検査方法を説明できる。 ・段階ごとの検査肢位・固定方法・評価基準・代償動作に留意し、検査を実施できる。	該当する筋の解剖図と走行を確認する。(30分) 検査肢位・固定方法・代償動作を復習する。(30分)
4	下肢の徒手筋力検査①股関節屈曲、股関節外転、膝伸展、足関節底屈	・該当する筋を触診できる。・段階ごとの検査方法を説明できる。 ・段階ごとの検査肢位・固定方法・評価基準・代償動作に留意し、検査を実施できる。	下肢の主要筋の起始・停止を予習する。(30分) 段階ごとの検査方法と抵抗部位を復習する。(30分)
5	頭部・体幹の徒手筋力検査①体幹伸展、骨盤挙上、体幹屈曲	・該当する筋を触診できる。・段階ごとの検査方法を説明できる。 ・段階ごとの検査肢位・固定方法・評価基準・代償動作に留意し、検査を実施できる。	体幹筋の構造と機能について予習する。(30分) 骨盤挙上や体幹屈曲の評価基準を復習する。(30分)
6	学習到達度確認①(筆記・演習)	・これまでに学修した範囲において、徒手筋力検査の方法を説明できる。 ・これまでに学修した範囲において、徒手筋力検査を実施できる。	これまでの全範囲の検査手順を再確認する。(30分) 指摘された手技の修正点や知識を復習する。(30分)
7	上肢の徒手筋力検査②肩関節屈曲、肩関節伸展、肩関節水平外転、肩関節水平内転	・該当する筋を触診できる。・段階ごとの検査方法を説明できる。 ・段階ごとの検査肢位・固定方法・評価基準・代償動作に留意し、検査を実施できる。	肩関節周囲筋の解剖と運動を予習する。(30分) 各運動方向の検査肢位と固定を復習する。(30分)
8	下肢の徒手筋力検査②股関節屈曲・外転・外旋と膝屈曲、股関節伸展、股関節内転	・該当する筋を触診できる。・段階ごとの検査方法を説明できる。 ・段階ごとの検査肢位・固定方法・評価基準・代償動作に留意し、検査を実施できる。	股関節複合運動に関わる筋を予習する。(30分) 股関節と膝関節の連動した検査法を復習する。(30分)
9	頭部・体幹の徒手筋力検査②頭部伸展、頭部伸展、頭部屈曲、頭部屈曲、頭部回旋、コアテスト	・該当する筋を触診できる。・段階ごとの検査方法を説明できる。 ・段階ごとの検査肢位・固定方法・評価基準・代償動作に留意し、検査を実施できる。	頭部と頭部の細かな筋の走行を確認する。(30分) 頭部回旋などの複雑な検査手順を復習する。(30分)
10	学習到達度確認②(筆記・演習)	・これまでに学修した範囲において、徒手筋力検査の方法を説明できる。 ・これまでに学修した範囲において、徒手筋力検査を実施できる。	姿勢別の検査項目をリストアップして予習する。(30分) 全範囲の実施スピードと正確性を復習する。(30分)
11	上肢の徒手筋力検査③前腕回外・回内、手関節屈曲、手関節伸展	・該当する筋を触診できる。・段階ごとの検査方法を説明できる。 ・段階ごとの検査肢位・固定方法・評価基準・代償動作に留意し、検査を実施できる。	前腕から手指にかけての細かな筋を予習する。(30分) 手指MMTの固定位置と抵抗の掛け方を復習する。(30分)
12	下肢の徒手筋力検査③股関節外旋・内旋、膝屈曲、足関節の背屈と内がえし	・該当する筋を触診できる。・段階ごとの検査方法を説明できる。 ・段階ごとの検査肢位・固定方法・評価基準・代償動作に留意し、検査を実施できる。	足部の内在筋と外在筋の機能を予習する。(30分) 足関節の代償動作(指の運動など)を復習する。(30分)
13	学習到達度確認③(筆記・演習)	・これまでに学修した範囲において、徒手筋力検査の方法を説明できる。 ・これまでに学修した範囲において、徒手筋力検査を実施できる。	顔面の表情筋と咀嚼筋の解剖を予習する。(30分) 顔面筋特有の段階づけ判定基準を復習する。(30分)
14	脳神経支配筋のテスト	・脳神経支配筋における段階づけを説明できる。 ・段階ごとの検査方法を説明できる。	効率的な検査の順番(姿勢変化の最小化)を考える。(30分) 実技での不備や判断の迷いを徹底的に復習する。(30分)
15	姿勢別評価	・姿勢別に徒手筋力検査の項目を列挙できる。 ・指定された姿勢に対して、徒手筋力検査を実施できる。	全範囲の理論と実技を総まとめする。(30分) 定期試験および評価実習に向けた最終確認を行う。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		理学療法士として医療機関に勤務し、理学療法評価に携わってきた		

科目名	日常生活活動A					単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 1年	学期	後期	教員実務経験		有	使用教室	301教室・ADL室
授業概要	日常生活活動と理学療法士の関わりについてや生活に不可欠な身の回り動作を理解し、ADL動作の評価方法や指導方法について学んでいく。また、バーセルインデックスやFIMといった必須評価について事例を通じ、適切な採点方法を学修する。									
一般目標	・理学療法士として必要なADL評価の手法や特徴について知識を修得する。 ・自助具および福祉機器の名称と使用目的について知識を修得する。									
テキスト 参考書等	理学療法学テキスト 日常生活活動学（Medical View） その他、必要な資料を適宜配布する。									

到達目標
知識(認知領域) ・ADLの概念を説明できる。 ・ADLの評価方法やADL動作の指導方法について説明できる。
技術(精神運動領域) ・杖の調整や車椅子操作を安全に実施できる。 ・バーセルインデックスやFIMについて、採点基準を理解し、適切に採点できる。 ・ICFを用いて情報を整理できる。 ・情報をICFのコードに分類できる。
態度(情意領域) 授業に積極的に参加できる。

回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	日常生活活動の概念	・日常生活活動, 基本的日常生活活動, 手段的日常生活活動を説明できる。 ・ICFの構成要素を説明できる。・QOLを説明できる。	テキストのADLの定義を読み予習する。(30分) ICFの構成要素と分類について復習する。(30分)
2	起居動作	・起居動作の特徴を説明できる。 ・起居動作の練習方法および支援・援助方法を実践することができる。	寝返りや起き上がりの運動学を確認する。(30分) 起居動作の介助ポイントを振り返る。(30分)
3	車いす・座位保持装置	・車いすの各部位の名称を説明することができる。 ・車いすの違いを理解し、利用者の残存能力に応じた車いすの選び方を検討することができる。	車いすの各部名称をテキストで予習する。(30分) 対象者に適した車いすの選定法を復習する。(30分)
4	車いす操作	・車いす駆動, キャスター 上げを実施することができる。	段差昇降などの駆動方法を予習する。(30分) 安全なキャスター 上げの技術を復習する。(30分)
5	移乗動作	・移乗動作の目的や留意点を説明することができる。 ・手順のポイントを理解し、多様な移乗動作を実施することができる。	移乗動作の種類と留意点を予習する。(30分) 各種移乗動作の手順と力加減を復習する。(30分)
6	歩行補助具	・歩行補助具の種類を理解し、その目的や適合方法を理解する。 ・杖・松葉杖の長さ調整を行うことができる。	杖や松葉杖の種類と適応を予習する。(30分) 杖の長さ調整と適合判定を復習する。(30分)
7	移動動作・歩行	・移動は転倒リスクを伴う動作であることを理解し、リスクを最小限にした安全な歩行パターン及び段差昇降パターンを説明できる。	段差昇降や応用歩行の理論を予習する。(30分) 転倒リスクを最小限にする指導法を復習する。(30分)
8	セルフケア・IADL	・セルフケア動作およびIADLに関する細目動作と工程を説明できる。 ・セルフケア動作およびIADLの動作改善に向けた推論に基づき、具体的な支援法を説明できる。	食事や整容動作の工程を予習する。(30分) IADLの評価と支援の推論を復習する。(30分)
9	日常生活用具・自助具	・日常生活用具の項目を理解し、貸与・購入等の区別を説明できる。 ・介護保険等の利用者負担額を説明できる。 ・福祉用具データベースを利用し、目的とする福祉用具を検索できる。	福祉用具の種類と公的制度を予習する。(30分) 自助具の検索方法と活用案を復習する。(30分)
10	バーセルインデックス	・BIの項目と点数を説明することができる。 ・BIのメリット・デメリットを説明することができる。 ・BIを使用し、評価を行うことができる。	BIの評価項目と採点基準を予習する。(30分) 事例を用いたBIの採点を復習する。(30分)
11	FIM①	・FIMの項目と点数を説明することができる。 ・FIMのメリット・デメリットを説明することができる。 ・FIMの採点基準を説明できる。	FIMの基本概念と項目を予習する。(30分) FIMの各項目の採点基準を復習する。(30分)
12	FIM②	・具体例を通じ、FIMの採点基準に則った採点が行える。 ・提示された症例のFIMを採点できる。	症例を通じたFIMの採点法を予習する。(30分) 演習で迷った採点根拠を再度復習する。(30分)
13	各種日常生活活動の評価方法	・日常生活活動に関連する様々な評価方法を説明できる。 ・シチュエーションに応じて、必要な評価方法を列挙できる。	多様なADL評価法の種類を予習する。(30分) 対象者に適切な評価法の選択を復習する。(30分)
14	国際生活機能分類ICF	・症例情報をICFに分類できる。 ・ICFの分類コードおよび評価点を説明できる。	ICFの分類コードの構造を予習する。(30分) 症例情報のICFへの分類法を復習する。(30分)
15	学修到達度確認 (筆記)	・これまでに学修した知識・技術を説明できる。	全範囲の重要語句と評価基準を予習する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80点以上
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70点以上
授業態度				評価なし	可(1):60点以上
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	理学療法士として医療機関で従事し、ADL指導などの業務に携わってきた。	

科目名	生活環境論				単位数	2	時間数	30	
授業形態	講義	対象学生	PT 1年	学期	後期	教員実務経験	有	使用教室	502教室
授業概要	理学療法士として患者様の治療を考えると、生活環境を前提として治療目標を立案することが不可欠である。QOLを向上させるためにも環境面へのアプローチを提案できなくてはならない。本授業では生活環境に対する基礎知識と考え方を学習する。								
一般目標	住宅改修と福祉用具についての基本的知識を習得する。								
テキスト 参考書等	地域リハビリテーション学 第2版(羊土社)								

到達目標			
知識(認知領域) ①住環境整備のために理学療法士として必要な知識(社会制度、家屋改修・福祉用具の導入のポイント)を説明できる。 ②障害モデルごとの住環境整備のポイントを説明できる			
技術(精神運動領域) なし			
態度(情意領域) 授業に積極的に参加することができる。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	福祉住環境整備の重要性・必然性	・福祉住環境整備の重要性について説明できる。	福祉住環境の概念についてテキストを予習する。(30分) 住環境整備の重要性とリハの役割を復習する。(30分)
2	高齢者の健康と自立	・高齢者の健康の特徴について説明できる。	高齢者の身体的特徴と老化の基礎を予習する。(30分) 高齢者の健康維持と自立支援の関連を復習する。(30分)
3	少子高齢社会と共生社会への道	・日本の少子高齢社会について説明できる。認知症サポーターになる。	日本の人口動態と認知症の基礎知識を予習する。(30分) 認知症サポーターとしての役割を復習する。(30分)
4	住環境整備の基本技術①段差	・段差や床材の家屋改修について説明できる。	段差解消の工法と床材の種類を予習する。(30分) 段差改修の適応と安全性のポイントを復習する。(30分)
5	住環境整備の基本技術①手すり	・手すりの基本事項について説明できる。	手すりの種類と標準的な設置高さを予習する。(30分) 動作に応じた手すり形状の選択を復習する。(30分)
6	住環境整備の基本技術①建具	・建具、スペースへの配慮の基本事項について説明できる。	建具の種類と有効開口幅の基礎を予習する。(30分) 動作空間の確保と建具選択の留意点を復習する。(30分)
7	住環境整備の基本技術①トイレ	・トイレに関する家屋改修について説明できる。	トイレの一般的寸法と動作の基礎を予習する。(30分) 排泄動作を円滑にする環境整備を復習する。(30分)
8	生活行為別整備の手法①外出	・玄関回りの改修を中心に、外出支援に関する家屋改修について説明できる。	玄関の段差とアプローチの構造を予習する。(30分) 外出支援に必要な屋外環境整備を復習する。(30分)
9	生活行為別整備の手法②屋内移動	・廊下や階段など屋内移動に関する家屋改修について説明できる。	廊下・階段の移動に関する基礎を予習する。(30分) 屋内移動の安全性と手すり連続性を復習する。(30分)
10	生活行為別整備の手法③排泄	・トイレに関する家屋改修について説明できる。	排泄動作の構成要素と必要スペースを予習する。(30分) 各種排泄補助用具の適応と活用法を復習する。(30分)
11	生活行為別整備の手法④入浴	・風呂と脱衣所に関する家屋改修について説明できる。	浴室の基本構造と入浴動作の基礎を予習する。(30分) 浴室内での転倒防止と動作補助を復習する。(30分)
12	生活行為別整備の手法⑤その他	・家屋改修一般の適応方法について説明できる。	住宅改修の申請制度と手順を予習する。(30分) 家屋改修全般の適応判断と留意点を復習する。(30分)
13	福祉用具①起居・就寝・移動	・起居、就寝、移動に関わる福祉用具について説明できる。	特殊寝台や車椅子の基礎知識を予習する。(30分) 福祉用具を用いた起居・移動支援を復習する。(30分)
14	福祉用具②排泄・入浴	・排泄、入浴に関わる福祉用具について説明できる。	排泄・入浴用福祉用具の種類を予習する。(30分) 衛生面と安全面に配慮した用具選定を復習する。(30分)
15	まとめ	・症例を通して生活環境の問題点を抽出し、環境整備を提案できる。	症例を通した環境評価の方法を予習する。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
学外テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員			実務経験紹介	地域理学療法に従事した経験を有する	

科目名	理学療法セミナー					単位数	1	時間数	30	
授業形態	演習	対象学生	PT 1年	学期	前期・後期	教員実務経験	有	使用教室	502教室	
授業概要	カリキュラムが進行するにつれ、基礎分野から専門基礎分野、専門分野へと推移する。とりわけ専門基礎分野は今後学ぶ専門分野の基盤となるため、解剖学・生理学・運動学などの知識の定着は必須である。理学療法セミナーでは、これまでに学修した専門基礎分野における知識の学修到達度を確認した上で、国家試験水準の知識定着を図る。授業は前期8コマ、後期7コマで進行し、各期末においてCBTを行う。CBTは事前に提示している学修範囲の正答率が90%以上となるまで行う。									
一般目標	・解剖学・生理学・運動学の知識を国家試験水準で身につける。 ・自己学修習慣を身に着ける。									
テキスト 参考書等	基礎固め ヒント式トレーニング 基礎医学編 最新版(南江堂) 生体のしくみ標準テキスト 新しい解剖生理 最新版(医学映像教育センター), Visualearn(医学映像教育センター)									

到達目標			
知識(認知領域) ・解剖学, 生理学, 運動学の知識について説明できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、各選択肢の正解・不正解の理由を説明できる。			
技術(精神運動領域) ・KJ法やブレインストーミングなどの手法を用い、周辺知識を関連付けて情報を整理できる。 ・学修到達度を把握し、無理のない自己学修スケジュールを立てることができる。			
態度(情意領域) ・授業に積極的に参加することができる。(周囲と協力する、周囲に配慮する、周囲と討議する) ・授業に出席する。			
回数	授業内容	授業目標	事前学習(上段)・事後学習(下段)
1	基礎医学における知識の整理① 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	テキストの生理学・解剖学の範囲を予習する。(30分) 演習で解いた多肢選択問題の誤答を復習する。(30分)
2	基礎医学における知識の整理② 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	国家試験水準の解剖学・生理学を予習する。(30分) 正解・不正解の根拠を周辺知識と関連付け復習する。(30分)
3	基礎医学における知識の整理③ 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	運動学等の基礎知識についてテキストで確認する。(30分) KJ法等を用いた情報整理の内容を振り返る。(30分)
4	基礎医学における知識の整理④ 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	専門基礎分野の国家試験過去問を予習する。(30分) 選択肢の正誤理由を説明できるよう復習する。(30分)
5	基礎医学における知識の整理⑤ 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	解剖学・生理学・運動学の基礎を再確認する。(30分) 自身の苦手分野を把握し小テストに備える。(30分)
6	基礎医学における知識の整理⑥ 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	次回の学修範囲についてテキストを読み込む。(30分) 周辺知識との関連付けを意識して復習する。(30分)
7	基礎医学における知識の整理⑦ 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	専門基礎分野の重要語句をテキストで予習する。(30分) 授業内の多肢選択問題を再度解き直し復習する。(30分)
8	基礎医学における知識の整理⑧ 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	国家試験水準の知識定着に向けた予習を行う。(30分) 自己学修スケジュールの進捗を振り返る。(30分)
9	基礎医学における知識の整理⑨ 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	基礎医学全般の既習範囲をテキストで予習する。(30分) 知識の整理手法を再確認し、復習を行う。(30分)
10	基礎医学における知識の整理⑩ 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	専門基礎分野の解剖学・生理学を予習する。(30分) 不明点を整理し、次回のCBTに向け備える。(30分)
11	基礎医学における知識の整理⑪ 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	運動学の基礎知識をテキストで再確認する。(30分) 各設問の解説を読み込み、知識を定着させる。(30分)
12	基礎医学における知識の整理⑫ 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	国家試験過去問の類似問題を予習する。(30分) 授業内容を整理し小テストの対策を行う。(30分)
13	基礎医学における知識の整理⑬ 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	専門基礎分野の横断的な知識を予習する。(30分) 誤答選択肢の根拠を詳しく調べ復習する。(30分)
14	基礎医学における知識の整理⑭ 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	基礎医学の総まとめとしてテキストを予習する。(30分) 授業で学んだ周辺知識との関連を復習する。(30分)
15	基礎医学における知識の整理⑮ 学修到達度確認	・専門基礎分野(解剖学・生理学・運動学・その他)の知識を、周辺知識と関連付けて整理できる。 ・専門基礎分野の国家試験水準の多肢選択問題において、正解・不正解の理由を説明できる。	CBTに向けた全範囲の最終予習を行う。(30分) 全範囲の総復習を行い、定期試験に備える。(30分)

成績評価方法					
	知識(認知領域)	技術(精神運動領域)	態度(情意領域)	評価割合	成績評価基準
定期試験	○			100	秀(4):90点以上
小テスト				評価なし	優(3):80～89点
宿題授業外レポート				評価なし	良(2):70～79点
授業態度				評価なし	可(1):60～69点
発表・作品				評価なし	不可(0):60点未満 未修得
演習				評価なし	
出席			○	欠格条件	()内はGPA点数
担当教員	実務経験紹介		教員として国家試験対策に携わってきた		